

# タイ伝統医学

タイの伝統医学は、インドの伝統医学アーユールヴェーダがベースとなり、中医学や仏教の影響を受けながら、発展してきました。

Thailand

## 概要

タイの伝統医学では、人間の身体を含め自然界の全てのものは「土・水・風・火」の4つの要素から成ると考え、宇宙と人間の体は分離しているわけではなく、相対関係にあるとしています。また、この4要素が良いバランスを保っているとき、身体は正常に機能しますが、常に自然の影響を受けてバランスが変化すると考えます。

また、人体には「セン」という体を通るエネルギー

## タイ伝統医学

ラインがあり、この「セン」を通して「土・水・風・火」の4要素が流れると考えます。病気は、エネルギーのバランスが崩れた状態であり、本来の身体が持っている正常なバランスに戻すのを助けるのが、タイ伝統医学の基本です。現在、タイ伝統医学は実績ある医学療法として、タイ国内の大学病院などの医療機関にて取り入れられています。

## 起源

タイの伝統医学の起源は、今から約2,500年ほど前のインドにあると言われていました。釈迦の主治医でもあったと言われるシヴァカ・ゴマラバット師の医術が、仏教の伝来と共にタイに伝わったとされ、インド伝統医学のアーユールヴェーダを基に中医学や仏教の影響を受けながら発展してきました。

タイ医学は何世紀にも渡って、師の下で生活しな

## タイ伝統医学

から学ぶ弟子へと、口頭で伝えられてきましたが、1767年のビルマ軍の侵攻によって、当時のアユタヤ王朝に保管されていた医学書は、ほとんどが失われてしまいました。その後、1837年に僅かに残った医学書が、バンコクのワット・ポー（プラ・チェトゥフォン王立寺院）にある石碑に刻まれ、現在でもその敷地内の壁で目に見ることができます。